

倉吉市立小学校適正配置【上小鴨地区】説明会 概要

倉吉市教育委員会事務局

- 1 日 時 平成29年6月30日（水）19時30分～21時35分
- 2 場 所 上小鴨公民館会議室1, 2
- 3 出席者 住民、学校関係者：106名
市教委：教育長、宮近教育委員、福井教育委員、事務局長、学校教育課長
指導主事 等
倉吉市：企画振興部次長兼総合政策課長

4 概要

- (1) 教育長あいさつ
- (2) 資料説明（学校教育課長）
- (3) 質疑（〇…質問・意見 →…教育委員会回答 →…市長部局）

〔事務局から提案したグループ協議については、地元から反対が出され、協議の上
地元と事務局との問答となった。〕

○協議会の説明を聞くと、統合ありきを前提とした協議会に聞こえてくる。事務局側に聞いてみたいが、市役所の立場ではなく市民の立場としてどういう考えなのか教育委員さんも含めて聞きたい。上小鴨地区がこうして何回も協議をしているが、審議会での会議の中身がわからない。どういう状況で会議をしているのか。

○成徳小学校がきれいな学校になったが、地震の前から統合の話は出ていたのに、どうして出来たのか？地震の影響で、市の財政もいろいろと大変だろうに、なぜだろうと疑問に思う。

→人数の少ない学校や多い学校など各学校に訪問しているが、6ページにある“現場はこう考えるメリット・デメリット”と、ほぼ同じ印象を受けている。その中で、メリット・デメリットを考えると、20人という人数が必要ではないかと思う。上小鴨小学校は、まだ90人近くいるが、これから10年大きく変わってくる。どうするのか、どうやって守っていくのか考え努力してほしい。今のままでは10年後のことを考えると、統合という方向へもっていった方がいいという自分なりの考えである。

→どの学校も伸び伸びとやっていて、それぞれの学校の良さもわかるが、例えば5人のクラスに1人が女子で、残りの4人が男子とか、逆の場合もある。たとえクラス替えが出来なくても、大勢の人数と共に学んでいけることの良さを山守・関金小学校の統合を見て感じた。地域に学校がなくなる寂しさはよくわかるが、やはり子ども達のことを考えていきたいと、日々考えている。

→適正配置についての議論は、大概の中で議論しており、その様子はホームページの議事録を見ていただければと思う。資料1ページにあるように教育基本法が大きく改正になり、これを受けて倉吉の教育を考えることが必要ではないかという議論があった。平成21年に倉吉の教育を考える委員会から6項目の提言をいただき、倉吉の教育目標・理念や幼児教育、生涯学習そして学校

の在り方について検討するよう提言があった。それを小中学校の校長先生や保護者代表、社会教育関係、公民館運営委員の代表、学識経験者等の方々に組織した学校教育審議会で議論をして、まとめたものが倉吉市教育振興基本計画である。次に適正配置についてどう考えたらいいかということで、答申案が出され、平成24年には各地区へ説明会を実施した。その答申案では上小鴨地区をA地区、B地区と分けてあったが、これは地区を分断する事になるので一体として考えてほしいということで、平成25年の推進計画では上小鴨地区は一体となって小鴨小学校へ、そして西中へ進学する計画を出した。そして地元から出された質問事項19項目に対して回答も出し、それについての勉強会もされ、こうしたやり取りをしながら進めてきたところである。

次に成徳小学校の件であるが、非常にきれいな学校になり新聞にも取り上げられた。これは耐震化より前の話で、統合を進めてきちっとした計画にしようとしたが、なかなか統合の話が進まなかった。それよりも耐震化は、子ども達の命にかかわることであるので、議会に諮り、今は耐震の方を急がしてくださいとお願いをした。補強工事では保たない建物だったので建替となった。昨年10月21日中部地震が起こったが、幸い子ども達は、耐震の出来ている校舎にいたので無事だった。このまま古い校舎を使っていたら子ども達に被害が出たと思う。耐震化全体で50億円使ったが、小中学校の耐震化は全て実施した。本当に無事で良かったと思う。

○事務局より説明があったが、あまりにも多い内容を短時間で説明して消化不良な感じがした。もう少し丁寧にしっかり説明してほしい。また、幼保小中学校保護者アンケートだが、該当地区の保護者を対象にするべきだ。対象校以外は、ただ小さい学校は統合すればいいくらいの発想だと思うので、アンケート結果で賛成が多いからと使ってもらっては困る。そして中部地震では、避難所になった体育館で地域の方々が中心になって夕食等も出されたが、大きな役割をされたのが学校の先生方だった。そういうことを考えると、平成25年に出された教育審議会での答申、草案はもう破綻しているのではないか。人口が少なくなればなるほど、どうやって地域を元気にしていくかということを考えるのが行政ではないか。

→4月に開催した市民説明会での資料を抜粋した資料にしているので、本日は重要ポイントだけに絞らせて説明させてもらった。該当校のアンケートについては4ページ、各小学校の該当校アンケートについては10ページに載せているところで理解いただきたい。

⇒学校統合という問題は国でも大きな議論になっている。統合という選択や、そのまま残すという選択もあるが、いずれにせよ子ども達のために活気ある学校をどう作っていくか、ここに議論を集中させることが大事である。統合となり、地域から学校がなくなった場合に、どう地域の振興を図っていくか考える必要がある。私たちも地域振興ということには絶えず目を向けていかなければいけないと考えており、こうした場面にも出て地域振興に関する考えを聞いていきたい。

○熊本県多良木町立槻木小学校が廃校になり、数年で高齢化率75%、一番若い人で53歳ということで地域住民が焦り、考えに考えた結果、小学校をもう一回作ろうと、福岡県からIターン家族を招き、7年後にたった1名の小学校が開校した。現在は2名のようなのだが、地域がその子どものために守って頑張っている。今、推計で数年で50名という試算であるが、行政で取り組みをやっていけばそれをくい止めることも出来るかもしれないのに、統合ありきでやっていくのであ

れば本当に倉吉市はなくなってしまうと思う。倉吉市はどんな状況でも残していくのだと、今の少子化をチャンスと捉えて、地域活性化の取り組みをしていくという観点をお願いしたい。

○地域の衰退について、子どものことを考えられていないようだが、子ども達の大切な家庭は地域にある。地域にある家庭と繋がって、地域の子どもの見守っていこうとする大人がたくさんいて、学校行事にも積極的に関わってやっている。顔が見える関係がとても良い。大きな学校になると、同級生や先輩の顔はわからないし、当然親の顔もわからないので、そういう関係が心配になる。やはり顔が見える関係であってほしいし、それが安心できる子ども達の育ちの環境だと思う。

○今日は小学校で6年生と赤ちゃんがふれ合う会があり、最後に何か意見がありますか？と聞かれたら、全員の手があがり、自分の意見がさっと言える。これは普段から少人数の中で、いろいろな場面で自分が主になって出来る体制が整っているからで、これが多人数だとこのようにならないかもしれないと思った。今、大勢いる小鴨小学校と一緒にするのがいいのか、そこをやはり考えたいし、今この人数でダメなのかということをもっと話をしていた方がいいと思う。

○ある講演で、子育ては学校・家庭・地域、この三角関係が非常に重要であると言われ感銘した。上小鴨の子は全て徒歩で通っているが、地域の方が必ずどこかで見守って、あいさつをされる。そういう環境で育った子どもは、誰とでも気さくに話せるが、それには友達だけでなく、地域の大人や先生以外からの大人からいろいろなことを吸収しているからだと思う。これがバス通学になると、バス停から家までは地域の人がいるかもしれないが、今のように地域のふれ合う場所が間違いなくなくなってしまふ。このことが、子どもの成長にどう影響するのかが、不安に思う。小学校PTA活動の中で、保護者にもっと興味をもってもらふよう再編に関する広報を行う部署を今年設置したので、保護者の方にもいろいろと問いかけていきたいと思っている。是非とも子ども達は、数とか他県のデータで学校の在り方を決めてほしくない強く要望する。

○文科省から統合云々ということが出ているが、それぞれ最終的には各市町村の考え方によって、地域の方と密接した擦り合わせをしながら判断し決定していくという文書である。是非とも倉吉市もそのような判断力・決断力、間違っただけにいかないで、良い方向へお願いしたい。

○県立美術館は、いろいろあったら最後知事はアンケートを重視して倉吉市に設置すると決断された。適正配置に関するアンケートも、よその地区ではなく、上小鴨地区のアンケート結果を重視してほしい。

→上小鴨地区の皆さんが本当に地区をあげて子ども達のことを一生懸命に考えられていることは教育委員会も良くわかっているし、これは間違いのない事実である。逆にこういう地域の盛り上げを倉吉市全体に広げていきたいと思う。

私たちは目をふたつ持っていて、ひとつはやはり地元を見なくてはいけない。もうひとつは全体を見る必要がある。だから、限られた倉吉市の予算の中でやってきている。「遅い、もっと早く」とも聞くが、限られた予算の中でどのようにやっていくかは大事なことである。アンケートにしても倉吉市全体のアンケートと同時に、上小鴨地区のアンケートも出している。やはり、両方見

ながら考えましょう。この課題を解決していかないと次の子ども達にこれをずっと引きずってしまふことになるので、やはり私たちは大変だけれど考えなければならない。

(4) 閉会

5 アンケートでの感想、意見等（回収83名） 【別紙】

<アンケート等の意見抜粋>

- ・ 適正配置の見直し(多数意見あり)
- ・ 最初から統合ありきで話を進めている。(多数意見あり)
- ・ 学校がなくなると地域の衰退は目に見えている。
- ・ 400～500名の学校がなぜ適正な配置になるのか理解出来ない。小鴨小から上小鴨小に来て、人数調整されても良いと思う。子どもは大きい学校で育てたいとは思えない。
- ・ 小規模の良さをもう一度考え直してほしい。「顔の見える教育」は大事である。
- ・ メリット、デメリットの両方をメリットとする案を根本から考える。
- ・ 上小鴨小学校は分校としてでも残すべき。地区が活性化する案を行政は考えるべき。
- ・ 統合しても子どもがいなくなるわけではないので、休日に子ども達と地域がふれ合える事業を今以上に大人が考え、地域を盛り上げていけば良い。地区公民館はそうした事業の活動拠点とする。
- ・ 年配者が大声を出し続けているため、中年層の意見が通らない。まして若者は論外視されている。
- ・ 直接関わるのは、統合時の対象となる保護者であり、意見が出しづらい。反対・賛成・その他に分けて、ディスカッションすることが必要。
- ・ 保育園から固定でのボスが決まってしまうと、新しい意見が言えず、言いなりの6年間。
- ・ 学校統合＝地域衰退化とは思わない。少子化→人口減少が地域衰退化の直接の要因になってくる。むしろ学校統合することで、地域がより活性化するよう協議していくべき。